

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年7月24日
【事業年度】	第32期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	日本調剤株式会社
【英訳名】	NIHON CHOUZAI Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 三津原 博
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
【電話番号】	03 - 6810 - 0800（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鎌田 良樹
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
【電話番号】	03 - 6810 - 0800（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鎌田 良樹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成24年6月28日に提出した第32期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

5 従業員の状況

(2) 提出会社の状況

第2 事業の状況

1 業績等の概要

(1) 業績

医薬品製造販売事業

3【訂正箇所】

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

5【従業員の状況】

(2) 提出会社の状況

セグメント別従業員数の表及び注記を追加いたしました。

(訂正前)

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
2,040 (428)	33.06	5.10	5,348

(注) 1 従業員数は、就業人員数であります。

- 2 従業員数の外書きは、臨時雇員(準社員、契約社員、嘱託社員、パートタイマー、アルバイト)に関する8時間換算に基づく年間平均雇用人員数であります。
- 3 平均年齢、平均勤続年数、平均年間給与は、正社員に関するものであります。
- 4 平均年間給与は、税込支払給与額であり、賞与及び基準外賃金を含め、通勤手当は含めておりません。
- 5 従業員数が当事業年度において224名増加しておりますが、主として平成23年4月1日付で入社した新入社員及び当事業年度中に中途採用した社員並びに平成23年11月1日を期日として当社に吸収合併した有限会社西華堂、株式会社有鄰、平成24年3月1日を期日として当社に吸収合併した株式会社西武調剤センター、株式会社チバイノン、株式会社札幌薬剤、有限会社みどり薬局、有限会社中島薬局、厚生堂薬品株式会社、株式会社トップワンファーマシーの社員によるものであります。

(訂正後)

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
2,040 (428)	33.06	5.10	5,348

セグメントの名称	従業員数(人)
調剤薬局事業	1,875 (426)
全社(共通)	165 (2)
合計	2,040 (428)

(注) 1 従業員数は、就業人員数であります。

- 2 従業員数の外書きは、臨時雇員(準社員、契約社員、嘱託社員、パートタイマー、アルバイト)に関する8時間換算に基づく年間平均雇用人員数であります。
- 3 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属している者の人数であります。
- 4 平均年齢、平均勤続年数、平均年間給与は、正社員に関するものであります。
- 5 平均年間給与は、税込支払給与額であり、賞与及び基準外賃金を含め、通勤手当は含めておりません。
- 6 従業員数が当事業年度において224名増加しておりますが、主として平成23年4月1日付で入社した新入社員及び当事業年度中に中途採用した社員並びに平成23年11月1日を期日として当社に吸収合併した有限会社西華堂、株式会社有鄰、平成24年3月1日を期日として当社に吸収合併した株式会社西武調剤センター、株式会社チバイノン、株式会社札幌薬剤、有限会社みどり薬局、有限会社中島薬局、厚生堂薬品株式会社、株式会社トップワンファーマシーの社員によるものであります。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

医薬品製造販売事業

訂正箇所は__線で示しております。

(訂正前)

医薬品製造販売事業

ジェネリック医薬品に特化した製造販売子会社である日本ジェネリック株式会社は、国内の主たる医薬品卸ルートの全国流通網を確保したジェネリック医薬品メーカーとしての“強み”を発揮して、当社グループの調剤薬局向けはもちろんのこと、全国の医療機関・調剤薬局に対して積極的に販売活動を行い、売上拡大を図ってまいりました。本年2月には、ラインアップに注射薬を加え病院・診療所向けの拡販に向けた体制を強化しています。自社製造については、つくば第2工場での生産品目増加・稼働率の上昇に努めました。さらに、今後の生産拡大の準備を研究開発と製造設備の両面で積極的に推し進めました。業績面では、ジェネリック医薬品普及の動きが想定を下回り、当連結会計年度の医薬品製造販売事業の売上高は8,133百万円（対前年同期比7.3%、554百万円増）と微増に留まりました。利益面については、586百万円の営業損失（前年同期は1百万円の損失）となりました。なお当連結会計年度末での販売品目数は導入品を含め、340品目となっております。

(訂正後)

医薬品製造販売事業

ジェネリック医薬品に特化した製造販売子会社である日本ジェネリック株式会社は、国内の主たる医薬品卸ルートの全国流通網を確保したジェネリック医薬品メーカーとしての“強み”を発揮して、当社グループの調剤薬局向けはもちろんのこと、全国の医療機関・調剤薬局に対して積極的に販売活動を行い、売上拡大を図ってまいりました。本年2月には、ラインアップに注射薬を加え病院・診療所向けの拡販に向けた体制を強化しています。自社製造については、つくば第1工場での生産品目増加・稼働率の上昇に努めました。さらに、今後の生産拡大の準備を研究開発と製造設備の両面で積極的に推し進めました。業績面では、ジェネリック医薬品普及の動きが想定を下回り、当連結会計年度の医薬品製造販売事業の売上高は8,133百万円（対前年同期比7.3%、554百万円増）と微増に留まりました。利益面については、586百万円の営業損失（前年同期は1百万円の損失）となりました。なお当連結会計年度末での販売品目数は導入品を含め、340品目となっております。